

復興支援宣言文を
AMDAなど採択

フィリピン台風

【マニラ五十嵐朋子】

昨年11月にフィリピン南部を襲った台風30号の被災者と支援者が、復興に向けて協議する国際会議が8日、同国マニラ市であった。国際医療支援NGO「A

MDA（アムダ）」岡山市IIが、一緒に支援活動をしたフィリピンのNGOと共催した。

「復興に向けた支援を続け、別の場所で災害があればいつでも助け合う」などとする宣言文を採択した。

アジアを中心とした医療団体などから100人以上が参加。AM

DAグループ代表の菅波茂さんが「東日本大震災では、各国から支援者が駆けつけてくれた。だから、私たちもフィリピンの人たちを支えたかった」とあいさつ。12人が死亡、約

1500人が負傷したサマル島ギポロス町の町長、マーク・ビヨンは「これを機にもっといい町を作る。インフラの復興は進んでいないが、今は我慢の時だ」と話した。